

《担当者名》 近藤里美 浅野雅子

【概要】

「音楽療法」で学んだことを基礎に、医療・福祉領域での音楽の療法的役割について学修する。同時に現在の音楽療法の位置づけを踏まえ、リハビリテーションへの活用法を理解し、身体障害、精神障害、老年期障害の各領域において音楽療法がどのように用いられているのか実践例を通して学ぶ。

【学修目標】

「音楽療法」で学んだことをふまえ、各領域において音楽を療法的に活用するための基本的な知識と技術を学ぶ。

1. 身体障害、精神障害、老年期障害での音楽の療法的役割について説明できる。
2. 様々な楽器の種類と操作法を理解する。
3. 作業療法に活用可能な基本的な音楽技術を習得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義の流れや評価の説明	近藤里美
2	音楽療法に用いる楽器と活動	音楽療法に用いる楽器の種類と操作性の理解 音楽療法の目的に沿う活動内容の理解	近藤里美
3	身体障害領域と音楽療法	身体障害領域における音楽療法の役割 音楽療法に用いる楽器の種類と操作性 音楽療法の目的と活動	近藤里美
4	老年期障害領域と音楽療法	老年期障害領域における音楽療法の役割 音楽療法に用いる楽器の種類と操作性 音楽療法の目的と活動	近藤里美
5 }	精神障害領域と音楽療法	精神障害領域における音楽療法の役割 音楽療法に用いる楽器の種類と操作性 音楽療法の目的と活動	浅野雅子
6			
7 }	成人領域における音楽療法	治療的応用としての音楽活動の実践	浅野雅子
8			

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

平常点50%、リアクションペーパー50%

【教科書】

講義時に資料を配布する

【参考書】

スティーヴン・マロック 編 「絆の音楽性：つながりの基盤を求めて」音楽之友社 2018年

佐藤正之「音楽療法はどれだけ有効か」化学同人 2017年

山根寛 編 「ひとと音・音楽：療法として音楽を使う」青海社 2007年

【学修の準備】

「音楽療法」で学修した内容を整理し、講義で提示した参考論文や図書館にある関連図書を読んでおく。そのために事前学修と事後学修にそれぞれ80分を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

**【実務経験】**

浅野雅子（作業療法士、音楽療法士）、近藤里美（音楽療法士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関及び介護保険施設での実務経験を活かし、担当の講義を行う。